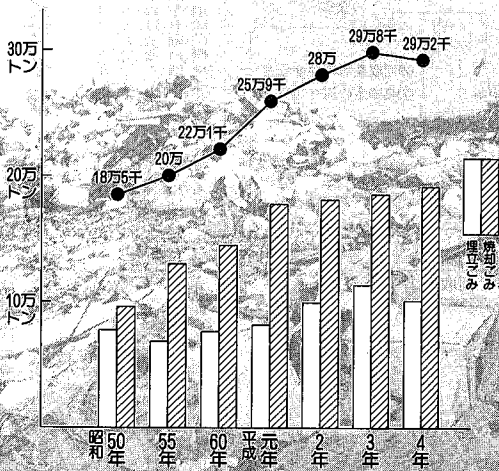




ごみ量の推移



市のごみ処理施設に集められた平成四年度のごみの量は約二十九万二千ト。一人当たりすると約六百十二ポンドになり、これを処理するために約四十九億円が使われました。市では地球環境保全のため増え続けるごみを減らすと、びん・缶などのリサイクルとごみ減量化を目指した新収集体制の検討を始めました。

増え続けるごみの量

焼却場はごみで一杯に 埋立地はごみで一杯に

焼却処理も難しくなる恐れがあります。つまり、ごみの減量化は避けて通れない問題なのです。

ごみの減量化に向けて

ごみとして捨てられているものの中には、貴重な資源が混じっています。しかし、そのほとんどが再利用されずに埋め立てや焼却処理されています。そこで市ではごみをリサイクルに回し、減量化を図るため、平成八年度に資源物の選別や市民への啓発活動などを行う「資源リサイクルプラザ」を稼働させ、リサイクル運

五分別収集の開始

毛筆事業を開始

今までごみとして埋め立ててきた「びん・缶」を新たに資源物として回収する、五分別収集モデル事業を十月から関屋地区の千七百世帯で実施しています。このモデル事業で不燃ごみの量や資源物の回収状況、区分変更に伴う問題点などを把握していきます。この五分別収集は平成九年度から、全市で実施する予定です。

ごみの量は昭和六十年から平成四年までの七年間で、約三割も増加しています。昭和五十年から六十年の十年間の増加率一九割に比べると、非常に増え続けていることがわかります。これは事業所のO.A化に伴う用紙類の増加や使い捨て商品などが年々増加してきていることによるものです。また、ごみの質も多様化してきています。リサイクルの推進などで平成四年度では若干減少しましたが、いぜんとして高い数値を示しています。表1。



市民一人当たりでは



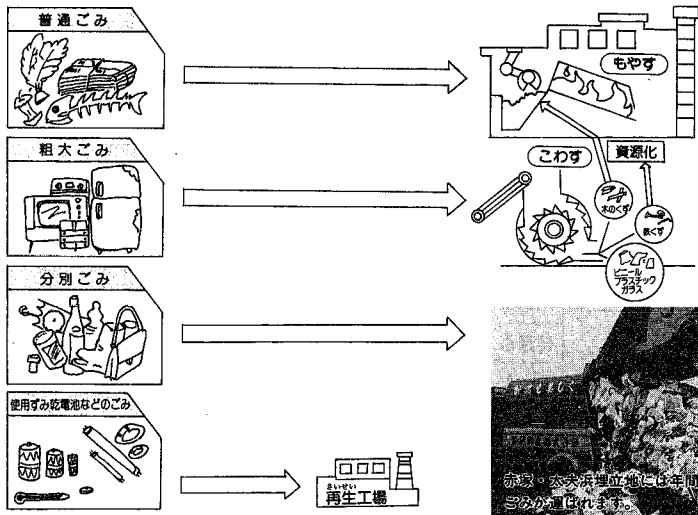
ごみ処理には 10,273円

ごみ1キログラムを処理するには



通常、家庭から出されるごみ1キログラム(約牛乳1ℓパックの重さ)を処理するために16円かかります。

ごみの分別と処理のしくみ



ごみは普通ごみ、分別ごみ、粗大ごみ、廃乾電池などの四分類に分けて収集されています。これは、ごみの種類によって処理の方法が異なるためです。

燃えるごみの中に金属類など燃えないごみが混じっていると焼却炉が故障するうえ、

焼却炉を止めて多額の経費をかけ修理しなければなりません。また、燃えないごみの中に生ごみが混じっていると、埋立地で悪臭が発生するとともに、ハエの大量発生やカラスの集まる原因となります。埋立処分地の周辺の市民に迷惑がかかりますので、きちんと分別してください。

